

# 馬場ひでゆきの活動日誌

## No.9

皆さん、ついに本格的な冬が始まりました。あと数日で大晦日。私もがむしゃらに駆け抜けたあつという間の一年間でした。この9号は今年最後の活動日誌となります。11月の決算委員会などの活動と12月20日に行われた連合委員会の質疑について「報告します」。

活動日誌はこれからも発行し続けますので来年もよろしくお願いたします。皆様、良いお年をお過ごしください。

### 決算委員会で質問

11月22日（水）は、決算委員会で花角県知事に対する総括審議があり、私も二点質問しました。

一つは、教員の多忙化解消についてです。令和5年4月時点の新潟県の教職員の未配置は、小中学校で10人、高校では13人生じていました。本来であれば、新学期はすべての学級で教員を配置することにより新学期を開始するのが県の仕事であるはずですが。教員の多忙化解消、教員の増員の取り組みが不十分であることを指摘しました。

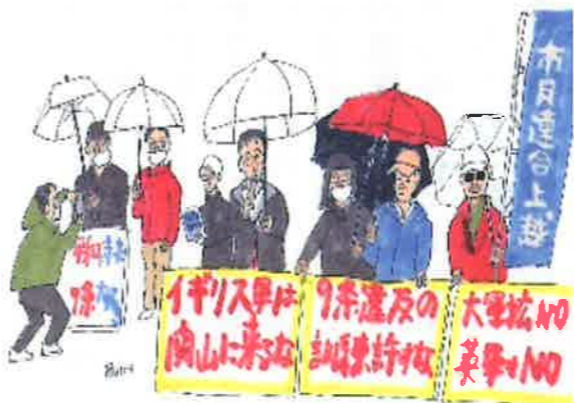
二つは、上越・新潟間のアクセス不便の解消についてです。県は、現在上越・新潟間のアクセス改善のための鉄道高速化構想を練っていますが、大型の公共事業を検討する前に、特急や快速列車の本数を増やし、北陸新幹線開業前の運賃体系等に戻すべくJRと交渉してほしい旨を要望しました。

### 戦争はごめんだ！

12月3日は、高田の雁木通りプラザで「戦争はごめんだ！軍拡と改憲に反対する市民の集い」が開催されました。市民連合・上越の主催です。ロシア・ウクライナ戦争が1年半以上続き、イスラエルのガザ攻撃により多数の犠牲者が出る状況下、みんなで戦争反対の意思を表明しようと企画されました。

当日は雨や風で天候がよくな

かったのですが、会場いっぱい80名の方々が参加しました。集会では、片岡豊代表が挨拶した後、市民団体や政党、市民の12名が「戦争で平和がもたらされることはない」「日本政府



はアメリカの顔色をうかがいながらやっている」「参政権は戦争をさせないために行使しよう」「いい加減に武力行使をやめてもらいたい」などトリートメントを行いました。

集会後は、みんなで高田の街中をデモ行進。学生が手を振ってくれてうれしかったです。

### 労災病院はどうなる

12月4日は、上越市医師会館で、上越地域医療構想調整会議が開かれました。私は、一般傍聴者として議論を聞きました。

会議では、労災病院の現状が報告され、労災病院の機能を地域の病院に移転させ、同病院を2年後に閉院することが提案されました。

同提案は会議では了承されましたが、受け入れ予定先の病院

からは、現状のままではスタッフ足りない、施設が手狭で老朽化しており改築がどうしても必要だ、との要望などが次々に出されました。

労災病院の再編協議については、「地域から病院がなくなる」という住民の不安の声が行政に届いていません。バスや鉄道を利用して労災病院に通院していた方々からは、「どこの病院に行けばいいのか」という声も聞こえてきます。とにかく、地元住民の声をすくいあげていくことが必要です。そのために、今後も努力いたします。



### 12月議会始まる

12月6日から、新潟県議会12月定例会が始まりました。議会では、今夏の高温・渇水による農林水産業への影響緩和に向けたり取り組み、持続可能な農業経営につながる支援、エネルギー価格・物価高騰対策についての予算が議論されます。後日、さらに詳細を報告します。

# 初めて議場に登壇しました

12月20日の定例会で知事と一問一答で議論する「連合委員会」の場において、初めて質疑で議場に登壇しました。その様子を要約してご報告いたします。

## パートナーシップ制度について

馬場：パートナーシップ制度は、性的少数者の生活上の様々な便宜を付与するもので、性的少数者の人権を尊重する点においても画期的な制度である、しかし、まだまだ誤解や偏見がある。そこで、今後も多くの議論を重ね、その上で、県議会の議決で「条例」を制定する方が正常なやり方と考える。

知事は記者会見で「要綱」で制定すると言っているが、「条例」で制定するつもりはないのか、知事の意見を伺いたい。

知事：この制度により、パートナーとの関係に何ら法的効果が生じることはない。多くの府県と同様に「要綱」によって実施することを考えている。

馬場：確かに法的効果を生じさせるものではないが、性的少数者の人権の尊重を確認するものである。「要綱」は行政手続きの内部の取り決め事に過ぎない。県のリーダーが変わる、或

いは世論の変化により、要綱を撤回するとか後退させるといことが行政の内部で行われる可能性があるかもしれない。そのような懸念はないのか。

知事：馬場委員が懸念していることは理解した。「要綱」を定めるために機微な部分やいろいろな考え方もあることについては丁寧配慮していきたい。

## 私立高校生への助成について

馬場：公立高校の授業料等が無償なのに対し、私立高校の授業料等については年収590万円以上の世帯は、県の助成が少なく、月に約2万7千円を保護者が負担する、これは重過ぎる。全国の28都府県では国の制度に上乗せ支援を実施している。全国の状況を踏まえると本県としても国の支援に上乗せした支援をするべきと考える。

知事：県の私立高校の学費は全国より低い水準となっている。年収590万円以上の世帯に対

し国や各県が行っている支援を控除した後の授業料の世帯負担においても全国中程度である。私立高校生の学費の支援は国の責任において法的整備により行われるべきであると考え、県としては国の制度を補う形で一定所得者世帯の上乗せ支援を行うとともに、国に対して一層の制度の拡充を要望していく。

## 連合委員会の意義について

新潟県議会でも実施されている連合委員会は、各常任委員会で議論が尽くされなかった論点を議場で直接知事に問うことができるユニークな議論の場です。知事の回答は、既に委員会でなされた県幹部の回答と変わらず、深まった議論はできませんでした。しかし、これにめげず、いろいろな場で論戦をしていきます。



## 私の推し本その2



### 夏目漱石著『坊っちゃん』

一番好きな作家は夏目漱石です。そして漱石の作品の中でも一番好きなのが『坊っちゃん』です。

坊っちゃんは、「親譲りの無鉄砲で子供の時から損ばかりして居る」。

そんな彼を、無私の愛情で包み込んでくれる女性がいた。家にいたお手伝いの清（キヨ）さんです。彼が自分の父親と喧嘩をしても、清は「あなたは真っ直ぐでよいお気性だ」と言ってほめてくれる。彼が清にお世辞は嫌だと言っても、清は「それだから好いお気性です」と言い、うれしそうに彼の顔を眺めてくれる。

やがて坊っちゃんは東京を離れて松山に行って教師になる。遠くから彼のことを心配して書いた清の手紙が素晴らしい。

「坊っちゃんは竹を割ったような気性だが、只癩癩が強すぎてそれが心配になる」「ほかの人にむやみにあだ名なんかつけるのは人に恨まれるもとなるから、やたらに使っちゃいけない、もしつけたら、清だけに手紙で知らせろ」「田舎者は人がわるいそうだから、気をつけてひどい目に遭わないようにしろ」自分のいいところも悪いところもすべてわかって肯定してくれる。清みたいな人がいてくれたら、生きづらい世の中でも生きられる気がする。



当事務所では下記の期間を年末年始の休暇とさせていただきます。ご了承ください。  
2023年12月29日  
～2024年1月8日

発行責任者：馬場ひでゆき事務所

住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号

ダイヤパレス高田式番館2階

電話 025-546-7110

ファックス 025-546-7666